

2018年3月期 第3四半期 決算説明資料

- 
- 1) 決算概要
 - 2) 決算のポイント
 - 3) 商品群別売上高
 - 4) 国内売上高
 - 5) 海外売上高
 - 6) トピックス
 - 7) 減価償却費と研究開発費
 - 8) 通期業績見通し
 - [参考]商品群別売上高見通し

日本光電工業株式会社

銘柄コード:6849

2018年2月2日

1) 決算概要

(単位: 百万円、単位未満切捨て)

	2017/3 第3四半期 累計	2018/3 第3四半期 累計	増減率 (%)	
売上高	110,619	117,456	6.2	
国内売上高	83,011	86,766	4.5	
海外売上高	27,607	30,689	11.2	← 為替影響除く: +7%
営業利益	5,302	6,041	13.9	← 粗利率: 2017/3 Q3 48.5% → 2018/3 Q3 48.1% 販管費率: 43.7% → 43.0%
経常利益	6,046	6,981	15.5	← 為替差益: 2.5億円 → 4.6億円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,825	4,262	11.4	← 法人税等の増加: 米国税制改正の影響約5億円
平均レート	(2016/12)	(2017/12)		
1 ド ル	107.4円	111.6円		
1 ユ ー ロ	118.6円	128.8円		

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

1

- 売上高は6.2%増の1,174億円となりました。
- 国内売上高は、4.5%増の867億円となりました。2017年4月に販売子会社を支社支店制に移行し、市場別の取り組みを強化した結果、病院、診療所市場ともに堅調に推移しました。全ての商品群で売上を伸ばすことが出来ました。
- 海外売上高は、米州、欧州が好調に推移したことから、11.2%増の306億円となりました。現地通貨ベースでは、7%増加しました。
- 営業利益は、研究開発投資等により販管費が増加しましたが、増収効果により13.9%増の60億円となりました。粗利率は、国内での大口商談、海外での売上増加に伴う外注費の増加により、0.4ポイント低下しました。なお、3カ月の会計期間は社内に対応したため、外注費の影響は軽微となっています。
- 経常利益は15.5%増の69億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は11.4%増の42億円となりました。なお、米国税制改正に伴う繰延税金資産の取り崩しにより、法人税等が約5億円増加しています。

2) 決算のポイント

売上高：前年同期比 6.2%増

- ・国内：市場別の取り組みを強化した結果、病院市場、診療所市場ともに堅調に推移し、全ての商品群で伸長。
- ・海外：米州、欧州が好調に推移し、二桁成長。

営業利益：前年同期比 13.9%増

- ・増収効果で研究開発投資等の販管費の増加を吸収し、増益。
- ・原価率は、国内での大口商談、海外での売上増加に伴う外注費の増加により上昇。

純利益：前年同期比 11.4%増

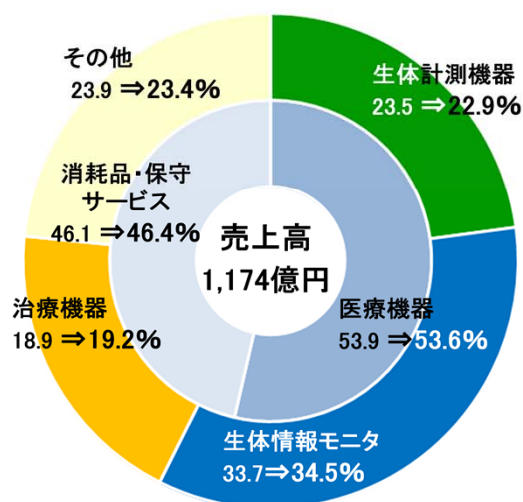
- ・米国税制改正に伴う繰延税金資産の取り崩しにより、法人税等が約5億円増加。

3) 商品群別売上高

(単位:百万円)

	2017/3 第3四半期 累計	2018/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
生体計測機器	26,006	26,859	3.3
生体情報モニタ	37,232	40,559	8.9
治療機器	20,948	22,497	7.4
その他	26,431	27,539	4.2
売上高合計	110,619	117,456	6.2
(ご参考)			
消耗品・保守サービス	50,956	54,485	6.9

商品群別売上構成比
(2016/12 ⇒ 2017/12)



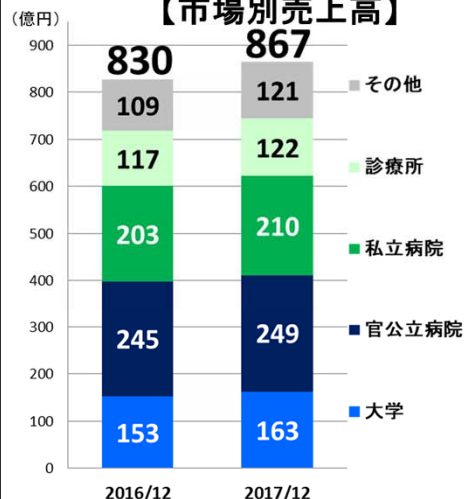
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

3

- 生体計測機器は3.3%増の268億円、
生体情報モニタは8.9%増の405億円、
治療機器は7.4%増の224億円、
その他は4.2%増の275億円となりました。
- 消耗品・保守サービスも6.9%増と好調に推移しました。消耗品・保守サービスの売上構成比率は46.4%に上昇しました。

4) 国内売上高

【市場別売上高】



【商品群別売上高】

(単位: 百万円)

	2017/3 第3四半期 累計	2018/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
生体計測機器	20,335	21,442	5.4
生体情報モニタ	24,448	25,680	5.0
治療機器	15,153	15,683	3.5
その他	23,074	23,961	3.8
売上高合計	83,011	86,766	4.5

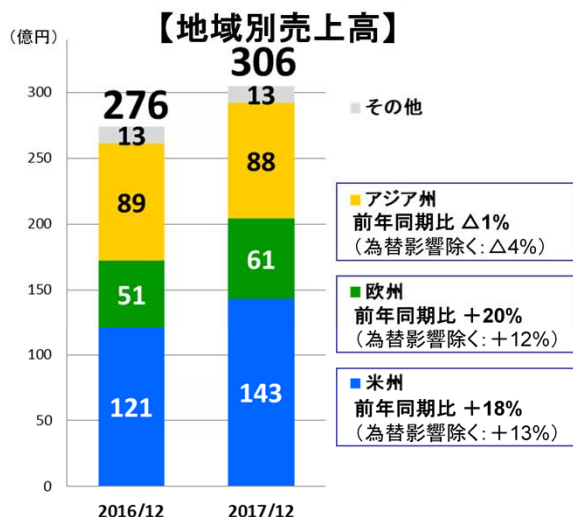
【市場別】 病院市場、診療所市場ともに堅調に推移。特に、大学病院市場で生体情報モニタが好調に推移。
 【商品群別】 生体計測機器： 脳神経系群は前年同期を下回るも、心臓カテーテル検査装置群が好調に推移。
 心電計群、診断情報システムも前年同期を上回る。
 生体情報モニタ： ベッドサイドモニタや臨床情報システムの更新商談もあり、好調に推移。
 治療機器： 除細動器、AEDが好調に推移。
 その他： 画像診断装置が前年同期を上回る。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

4

- 国内売上高は37億円増の867億円となりました。
- 病院市場、診療所市場ともに堅調に推移し、特に、大学病院市場は、第3四半期に入って更新商談が増え、生体情報モニタが好調でした。官公立病院、私立病院市場でも、新築移転商談や更新商談が寄与し、売上を伸ばすことが出来ました。
- 生体計測機器では、脳神経系群は前期を下回りましたが、心臓カテーテル検査装置群が好調に推移し、心電計群、診断情報システムも前期を上回りました。
- 生体情報モニタでは、ベッドサイドモニタや臨床情報システムが好調に推移しました。
- 治療機器では、除細動器、AEDが好調に推移しました。AEDはパッドやバッテリーといった消耗品が好調に推移したことから、増収となりました。
- 国内の市場環境は、例年であれば第4四半期に集中する大口商談が一部第3四半期に前倒しになっており、また、4月に診療報酬改定を控えていることもあり、病院の予算執行の動きが見え難い状況にあります。前期から販売組織を再編して注力している私立病院、診療所での取り組みを強化するとともに、大学、官公立病院での更新需要を着実に捉えるべく、期末に向けて営業活動に注力してまいります。

5) 海外売上高



【海外売上高比率】

2017/3 第3四半期累計	2018/3 第3四半期累計
25.0%	26.1%

【商品群別売上高】

(単位: 百万円)

	2017/3 第3四半期 累計	2018/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
生体計測機器	5,671	5,417	△ 4.5
生体情報モニタ	12,784	14,879	16.4
治療機器	5,794	6,814	17.6
その他	3,357	3,578	6.6
売上高合計	27,607	30,689	11.2

為替影響除く: +7%

- 【地域別】 米州: 米国では、生体情報モニタやAEDが好調に推移し、大幅に伸長。中南米も増収。メキシコは低調に推移するも、ブラジルが好調に推移。
- 欧州: フランス、ロシアが好調に推移したほか、トルコが回復。
- アジア州: 中国は新商品効果もあり増収となったものの、韓国、ベトナムが低調に推移。
- 【商品群別】 生体計測機器: 脳神経系群は米州、心電計群はアジア州で低調に推移。
- 生体情報モニタ: 米州、欧州で好調に推移。
- 治療機器: 除細動器は欧州、アジア州、AEDは米州で好調に推移。
- その他: 血球計数器が米州、欧州で好調に推移。現地仕入品も前年同期を上回る。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

5

- 海外売上高は30億円増の306億円、現地通貨ベースでは7%増加しました。海外売上高比率は26.1%となりました。
- 米州では、生体情報モニタ、AEDが好調に推移し、米国が大幅に伸長しました。デフイブテック社のAEDは、日本光電アメリカの病院向け直販チャネルを活用するクロスセリングも寄与しています。中南米もメキシコは低調でしたが、ブラジルが好調であったため、増収となりました。なお、メキシコ、ブラジルは12月決算であり、メキシコは受注が回復、ブラジルは引き続き好調のため、通期計画を達成する見通しです。
- 欧州では、フランス、ロシアが好調に推移したほか、前期に政情不安の影響を受けたトルコも売上を回復しました。
- アジア州では、韓国、ベトナムが低調に推移したほか、インドも7月の物品サービス税導入後の混乱により、低調でした。中国は除細動器などの新製品効果もあり、円ベースでは一桁半ば、現地通貨ベースでは一桁後半の増収となりました。なお、中国は12月決算であり、通期は円ベース、現地通貨ベースともに一桁後半の増収の見通しです。

6)トピックス

国内事業

ITシステムの機能強化 による競争力向上

臨床情報システム PrimeGaia



NEW! 患者さんの安全管理のため、
早期警戒スコア機能※1を追加

診断情報システム PrimeVitaPlus



NEW! 脳神経生理検査データネットワークシステム※2
を統合し、全ての生理検査を一元管理

※1 NEWS (National Early Warning Score: 英国標準の早期警告スコア)を採用。患者さんのバイタルサインを点数化し、急変リスクを早期に発見。

※2 長時間脳波検査や術中神経モニタリングなど、大容量のデータ管理に対応。

※3 esCCO: estimated Continuous Cardiac Output. 心電図とSpO₂から非侵襲で連続的に心拍出量を算出。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

海外事業

ブラジルトップ病院で 生体情報モニタ商談受注

重要拠点病院への直販を強化、
当社独自技術のesCCO※3をアピール



サンパウロ大学Incor病院の手術室・ICU
商談を受注



- 国内事業では、ITシステムの機能強化による競争力の向上を図っています。手術室やICUで使われる臨床情報システム PrimeGaia、検査室で使われる診断情報システム PrimeVitaPlusともに、多くの大学、官公立病院でご利用いただいています。PrimeGaiaには、患者さんの安全管理のため、早期警戒スコア機能を追加しました。PrimeVitaPlusは、脳神経生理検査データネットワークシステムを統合し、全ての生理検査を一元管理できるようになりました。2009年度から2013年度にかけて執行された地域医療再生基金で導入いただいた病院では、更新時期を迎えており、今後も、更新商談の獲得に努めてまいります。
- 海外事業では、ブラジルのトップ病院で生体情報モニタの商談を受注することができました。2012年に日本光電ブラジルを設立し、今期は特に重要拠点病院への直販を強化しました。当社独自技術であるesCCO等をアピールしたところ、サンパウロ大学Incor病院の手術室・ICU商談を受注することが出来ました。今後の波及効果が期待されます。なお、esCCOにつきましては、2017年11月に薬機法の承認を取得しました。現在、生体情報モニタの機能として追加の準備中であり、日本での発売は2018年度以降の予定です。

7) 減価償却費と研究開発費

(単位: 百万円)

	2017/3 第3四半期 累計	2018/3 第3四半期 累計	増減額	2017/3 前期実績	2018/3 予想	
					期初	11月6日 修正
減価償却費	2,461	2,417	△ 43	3,422	3,900	3,600
研究開発費	4,474	5,598	1,124	6,466	7,300	7,300
設備投資額				7,710	5,700	5,200

【2018/3期設備投資計画】

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、本社(西落合事業所)改修工事8億円

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

7

- 減価償却費は前期比4千万円減の24億円、研究開発費は11億円増の55億円となりました。
- 減価償却費は通期計画どおりを見込んでいますが、研究開発費は73億円を上振れる見通しです。中位機種のカートサイドモニタの開発工数が想定よりも増加したためですが、維持改良費は下振れる見込みのため、販管費全体では計画内に収まる見通しです。

8) 通期業績見通し

(単位: 百万円)

	2017/3 前期実績	2018/3 当期予想	増減率 (%)
売上高	166,285	175,000	5.2
国内売上高	124,764	128,000	2.6
海外売上高	41,520	47,000	13.2
営業利益	13,585	15,000	10.4
経常利益	14,053	15,000	6.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,149	10,200	11.5

海外売上高比率 25.0% 26.9%

平均レート (期初の想定)

1ドル	109.2円	110円
1ユーロ	119.3円	115円

【地域別海外売上高】

	2017/3 前期実績	2018/3 当期予想	増減率 (%)
米州	18,953	22,500	18.7
欧州	6,988	7,500	7.3
アジア州	12,639	14,400	13.9
その他	2,938	2,600	△ 11.5
海外計	41,520	47,000	13.2

※ 第4四半期の前提為替レートは110円/米ドル、115円/ユーロです。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

8

- 通期の業績予想については、変更ありません。
- 国内売上高は1,280億円に変更ありません。大口商談が一部第3四半期に前倒しになり、また、診療報酬改定を控え、病院の予算執行の動向が見え難い状況です。現時点では、第4四半期の国内売上高は、前期を若干下回る見通しです。大学、官公立病院での更新需要や、私立病院での診療報酬改定に備えた設備購入の動きを着実にとらえ、通期計画の達成を目指します。
- 海外売上高についても470億円に変更ありません。
- 米州は概ね計画どおりを見込んでいます。米国では生体情報モニタの受注が好調に推移しているため、通期は計画どおり二桁成長を見込んでいます。納品が集中する3月には、サポートのため、本社からサービス員を派遣する予定です。中南米は、計画達成の見込みです。
- 欧州はフランス、ロシアを中心に好調に推移しており、また、想定よりも円安基調のため、計画を上振れる見通しです。
- アジア州は、第4四半期は中近東を中心に回復する見通しですが、第3四半期までの不足をカバーできず、計画を下振れる見通しです。
- 利益については、営業利益150億円、経常利益150億円、純利益102億円に変更ありません。通期の粗利率については、前期の47.6%は上回るものの、48%には届かない見通しです。販管費の抑制により利益の達成を目指します。
- 国内・海外ともに3月に売上が集中しますが、生産・納品対応を万全な体制で臨み、売上、利益の達成に努めてまいります。

[参考]商品群別売上高見通し

(単位:百万円)

	2017/3 前期実績	2018/3 期初	予想 11月6日 修正	増減率 (%)
生 体 計 測 機 器	37,658	39,800	39,500	4.9
生 体 情 報 モ ニ タ	56,117	59,100	61,400	9.4
治 療 機 器	29,728	31,200	31,200	5.0
そ の 他	42,781	44,900	42,900	0.3
売 上 高 合 計	166,285	175,000	175,000	5.2

(ご参考)

消耗品・保守サービス	71,180	75,100	75,700	6.4
------------	--------	--------	--------	-----

- 商品群別の売上高見通しについては、ご覧のとおりです。
- 現時点では、11月6日の修正計画に対し、生体計測機器は下振れ、生体情報モニタは計画線、治療機器は上振れると見えています。



この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】経営戦略部

【連絡先】TEL03-5996-8003